

≪今朝の聖書から≫今朝の聖書箇所はヨハネ福音書18章33節からになります。イエス様は真ん中に立っておられますが、そのほかに、ユダヤ人とその権威者、総督ピラトについても描かれています。しかし、実に違う価値観に立っていたことが読み取れます。ユダヤ人の価値観は、いうまでもなく律法です。彼らは、過越しの祭りの間、汚れたことに関わりたくないという思いでいっぱいでした。神からはなれて“一人歩き”を始めてしまった“してはならない”という掟としての律法に従おうとしていました。また、ピラトはローマ法に根拠を置いていた官僚だったのですから、かみ合うことのない立場にあったということになります。私たちも、一生懸命になったとき、“真理”というものが何処かに行ってしまうことがないでしょうか。ユダヤ人は、憎しみでいっぱいでしたし、総督は官僚として“この場を如何に上手く納めるか”が中心問題でした。イエス様だけが静かに“真理”の姿として、そこに立っておられました。ピラトは“あなたはユダヤ人の王か”と聞きます。捕らえられている王などという者は、ありえなかったのです。イザヤ53：2にある“彼は主の前に若木のように、かわいた土から出る根のように育った。彼にはわれわれの見るべき姿がなく、威厳もなく、われわれの慕うべき美しさもない。”という御言葉が成就したことになります。イエス様は、“王”という言葉を用いて、父なる神様について語られます。“王は王でも真理の王であって、この世のものではない真理の王であると”と仰っているのです。功利的な考え方からすれば、王は王と戦わなくてはならないことになります。今朝の18：36には“イエスは答えられた、「わたしの国はこの世のものではない。もしわたしの国がこの世のものであれば、わたしに従っている者たちは、わたしをユダヤ人に渡さないように戦ったであろう。しかし事実、わたしの国はこの世のものではない」とあるのは、このことを言っているのです。37節に進みましょう。“イエスは答えられた、「あなたの言うとおり、わたしは王である。わたしは真理についてあかしをするために生れ、また、そのためにこの世にきたのである。だれでも真理につく者は、わたしの声に耳を傾ける」とあります。精神主義的な王でもありません。きわめて具体的な、“我々を支配して離さない王”のことです。何に支配されているのか、あるいは何を一番大切にしているのか、今朝もう一度かえりみましよう。ひょっとして、無意味なものに仕えていること、ないでしょうか。

# 週報

2007年 11月 25日



主イエスを信じなさい。そうしたら、あなたもあなたの家族も救われます。  
使徒行伝16:31

日本フリーメソジスト

## 清水草薙キリスト教会

教会学校	毎日曜日	午前 9:00
礼拝式	毎日曜日	午前 10:30
	(聖餐式	第一日曜日)
夕礼拝式	毎日曜日	午後 7:00
エステル一会	毎水曜日	午前 10:30
聖書研究祈祷会	毎水曜日	午後 7:00
ホームページ	<a href="http://kusanagi.church.jp/">http://kusanagi.church.jp/</a>	

〒424-0885

静岡県清水区草薙杉道3丁目2-26

☎054-345-4070 E-Mail [grace@big.jp](mailto:grace@big.jp)

牧師 村上定幸